

あいち農産物生産流通レポート

2021年8月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ イチゴ「ゆめのか」における窒素施用が先青果数と収量に及ぼす影響を解明 (農業総合試験場)	1
◎ 地域トピックス	
・ 豊橋温室園芸農業協同組合が生産物品評会を開催 (東三河農林水産事務所)	3
◎ 東日本情報	
・ キャベツとつまものの価格の動向 (東京事務所)	4
◎ フラワーページ	
・ 愛知県花き振興計画2025について (園芸農産課)	6
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	9
・ 名古屋・東京市場における青果物の8月の見通し	10
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の8月の見通し(県内市場)	22

※今月「西日本情報」はありません。

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

イチゴ「ゆめのか」における窒素施用が先青果数と収量に及ぼす影響を解明

農業総合試験場

「ゆめのか」は当試験場が育成したイチゴ品種で、食味が良く、多収性・大果性を持ち、県内主力品種の一つとして広く栽培されています。

大果系の品種では、成熟しても先端部分が青いままの「先青果」が発生する事例がみられます。

「ゆめのか」においても、個々の株で最初に出蕾する頂果房の頂果に先青果が発生しやすく、生産現場で課題となっています。

先青果の発生は、果実が成長する過程で、基部と先端部の雌ずいに成熟差が生じることが原因とされており、定植後の施肥管理が影響すると推測されています。

生産現場では、先青果の発生を抑制するために基肥の量を控える傾向にありますが、定植後の肥料不足は、葉面積の減少や頂果房の発育抑制など、収量の低下を引き起こすことがあります。

そこで、先青果発生抑制と収量確保の観点から、窒素の施用時期と施用量が先青果数と収量に及ぼす影響を調査しました。



「ゆめのか」の果実



「ゆめのか」の先青果

成熟しても先端部分が青いままです

1 窒素の施用時期の違いが先青果数に及ぼす影響

試験は、イチゴの販売単価が高い11月から12月の時期を中心に頂果房の果実を出荷する超促成栽培の作型で行いました。

花芽分化を促進するために短日夜冷処理した苗を、窒素がほとんど含まれていない川砂を詰めたポットに9月5日に定植し、慣行の施肥に加えて、頂果房の出蕾22日前又は10日前に硫酸(420mg-N/株)を追肥する試験区を設け栽培しました。

その結果、出蕾10日前に追肥した場合、株当たり先青果数は0.7果と最も多く、慣行施肥のみの場合の0.2果や22日前に追肥した場合の0.3果に比べ増加しました(図1)。

このことから、出蕾時期に窒素吸収量が多くなると先青果数が増加することが示唆されました。

なお、株当たり収量は、3つの試験区間で差はみられませんでした。

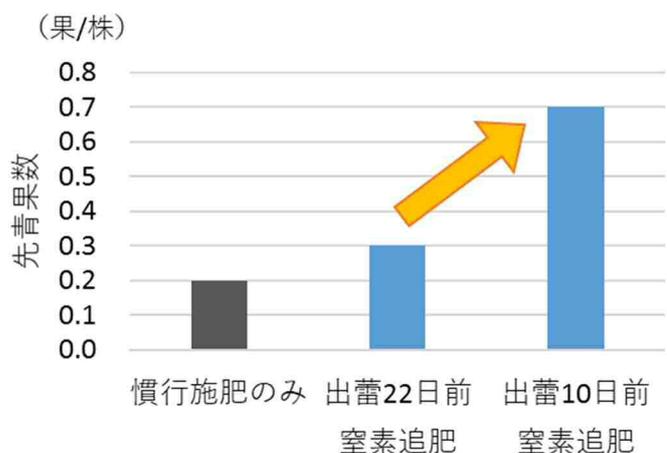


図1 窒素施用時期と先青果数の関係
定植日 9/5 出蕾日 10/14

2 窒素の施用量の違いが窒素吸収量・先青果数・収量に及ぼす影響

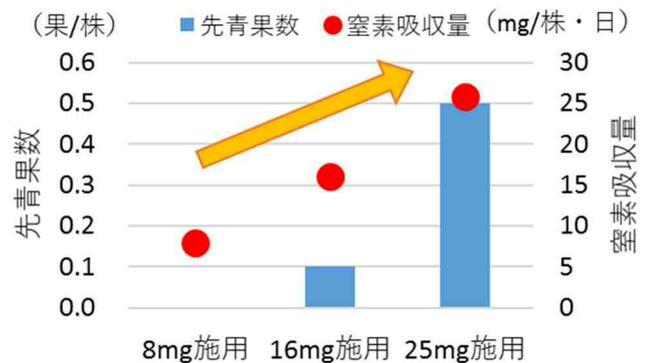
次に、生産現場で普及している高設栽培システムを用いた栽培方法に準じて、短日夜冷処理した苗を9月10日に定植し、出蕾10日前から出蕾期までに施用する窒素量を、慣行の8mg/株・日と16mg/株・日及び25mg/株・日に増量した試験区を設け栽培しました。

結果は、25mg 施用区で施用期間中の窒素吸収量が最も多く、先青果の発生も助長されました（図2）。

また、8mg 施用区では窒素吸収量も少なく、先青果の発生は確認されませんでした。

一方、出蕾前の窒素施用量が多くなるほど頂果房の果数と果重が増加したため、発生した先青果を除いた商品果収量が増加しました。

収益性を試算したところ、10a 当たりの販売金額は、16mg 施用区では8mg 施用区より24万円、25mg 施用区では42万円増加し、追加分の肥料費を考慮しても、施肥量の増加が十分に収益を向上させることができる結果となりました（表1）。



定植日 9/10 窒素施用期間 9/27~10/7 出蕾日 10/6

表1 窒素施用量の違いが頂果房の収量と収益性に及ぼす影響

試験区	商品果収量 (g/株)	商品果数 (果/株)	平均一果重 (g/果)	販売金額 ^{注1)} (千円/10a)	肥料費 ^{注2)} (円/10a)
8mg施用	260.9	18.5	14.1	3558	—
16mg施用	284.7	18.6	15.3	3798	380
25mg施用	299.9	19.5	15.4	3979	760

注1) 10a当たり7000株栽植した場合。先青果を除く。

販売金額=(11月商品果収量×11月平均単価)+(12月商品果収量×12月平均単価)。

平均単価は、11月1871円/kg、12月2069円/kgとした(名古屋市中央卸売市場の月別取扱高を参考)。

注2) 肥料費は、慣行に対する追加分。

3 まとめ

「ゆめのか」の高設栽培システムによる促成栽培において、頂果房の出蕾時期の窒素吸収量が一定水準より少ないと先青果の発生が抑制され、多くなると助長されることが明らかになりました。

その一方で、頂果房出蕾時期に窒素吸収量が増加すると、頂果房の果数と果重がともに増加し、販売単価の高い頂果房収穫時期の商品果収量の増加が見込まれることも明らかとなりました。

栽培期間全体を通じてみた場合、定植後の窒素供給量が多くなると、頂果房に続く第一次腋果房の開花が遅れることが報告されており、本試験においても、第一次腋果房の出蕾日が16mg 施用区では慣行区より4日、25mg 施用区では8日遅くなったことから、収穫できない中休みの期間が発生する可能性にも留意する必要があります。

「ゆめのか」の栽培に当たっては、生産者の経営戦略に即して、先青果の発生抑制による品質向上と安定生産か、あるいは高価格期の収量増加による収益向上か、重視する方向性を定め、それに応じて、頂果房出蕾時期の窒素吸収量を考慮した適切な施肥管理を行うことが求められます。

豊橋温室園芸農業協同組合が生産物品評会を開催

東三河農林水産事務所

1 今回の品評会について

豊橋温室園芸農業協同組合において、6月8日（火）に第30回生産物品評会が開催されました。この品評会は隔年で開催されていますが、昨年は新型コロナウイルスの感染状況を鑑み中止されたので、今年、3年振りの開催となりました。

2 審査について

出品された品目は、大葉、小菊、菊葉、ハーブ類、花穂、ほじそ（穂紫蘇）、ベルローズ、エディブルフラワー類で、出品数は合計235点でした。審査は、東三河農林水産事務所農業改良普及課と農政課（農業改良普及課長が審査委員長）、豊橋市、JA あいち経済連が務めました。

品質、品揃、荷姿の観点から審査を行い、入賞21点、入選34点を選びました。

この品評会は、例年4月に開催されてきましたが、今回は6月の開催になりました。エディブルフラワー類の中には、気温が高いと色が綺麗に出にくい品目や品種があり、開催時期が後ろ倒しになったことで苦労された生産者もいたようです。

東三河地域は、全国でも高いシェアを占めるつまものの産地です。農政課では、今後も関係団体と連携を取りながら、地域産業としてのつまものの振興を図っていきます。



大葉



ほじそ



エディブルフラワー類

キャベツとつまものの価格の動向

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた緊急事態宣言の発令等によって業務需要が停滞してから1年以上が経ちました。令和2年度に東京都中央卸売市場へ入荷された品目のうち、愛知県が全国1位であるキャベツ、おおば、ほじそについて、同市場での単価の推移をまとめました。

1 キャベツ

(1) 令和2年4～12月

初めて緊急事態宣言が発令された令和2年4月は、前年、前々年同月の入荷量を下回ったことに加えて家庭内需要が高まり、単価は前年の1.5倍となる139円/kgの高値となりました。5～7月も前年並の入荷量ながら前年の単価を大幅に上回って推移し、特に6月の単価は、入荷量の少なかった前々年をも上回りました。8、9月は再び入荷量が前年を下回って高値となり、10月は入荷量が前年並ながらも単価は前年を大幅に上回りました。しかし、11、12月はそれまでの傾向とは逆に、入荷量は前年並か下回ったものの、単価は前年を下回りました(図1)。

(2) 令和3年1～5月

2回目の緊急事態宣言が発令された令和3年1月は、入荷量が前年同月を下回り高値となったものの、前々年と比較すると、入荷量、単価ともに同程度でした。2月以降は各月の入荷量が前年を上回り、58円/kg～65円/kgの安値が続きました(図1)。

このように、キャベツの単価は、令和2年4～10月は入荷量の少なさが影響し高値で推移しましたが、愛知県産の入荷が増える11月以降は、潤沢な

入荷量と、当初みられた家庭内需要の落ち着きが相まって、安値基調となりました。

2 おおば

(1) 令和2年4～12月

令和2年4、5月は、入荷量が前年同月を上回り、単価は前年の7割の安値となりました。6月は前年を大幅に上回る入荷量ながら単価も前年を上回り、7月は前年並の入荷量で単価は前年を大幅に上回る高値となりました。8月は、入荷量が前年をやや上回り、単価は前年をかなり下回りました。平成31年、令和元年と過去2年とも8月の単価は7月より高値となったのに対し、令和2年は7月より安値となりました。9～12月の入荷量は各月とも前年を上回り、9、10月は前年を上回る単価となった一

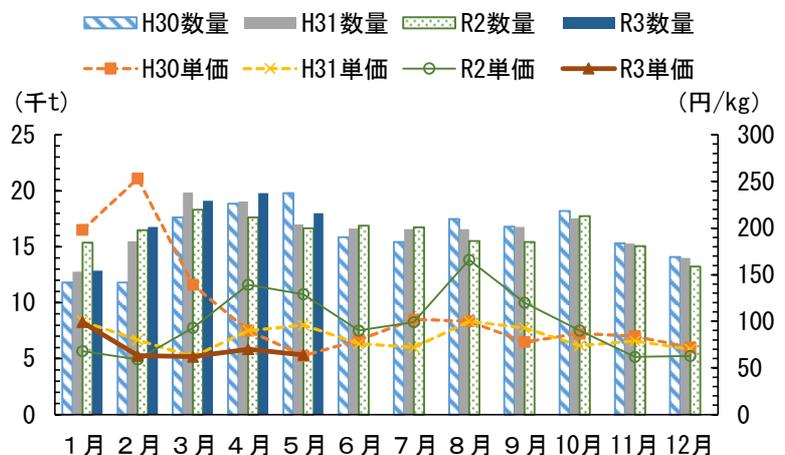


図1 キャベツの入荷量と平均単価

方、11、12月は前年の8割の安値となりました。なお、12月の単価は、過去2年と同様に11月より高値となりました(図2)。

(2) 令和3年1～5月

令和3年1、2月は、前年並の入荷量ながら単価は前年をかなり下回り、3月は前年をやや下回る入荷量で、単価は前年をかなり上回りました。4、5月の入荷量は前年並か下回り、単価は前年の1.4倍で、平成30年、31年に迫る単価となりました(図2)。

このように、おおばは、令和2年4、5月は業務需要が停止し、その分が一般市場へ流れたために単価は暴落しましたが、その後は業務需要が停滞しながらも一定の需要によって大きな値崩れはほとんどなく単価は推移しました。なお、入荷量の多さも影響してか、例年高値となる8、12月に例年のような高値とはなりませんでした。

3 ほじそ

(1) 令和2年4～12月

令和2年4月の入荷量は前年の3割に激減しましたが、単価は前年を大幅に下回り2,600円/kgに届かない安値となりました。5月も入荷量は前年の4割と激減し、単価は4月を上回ったものの、前年をかなり下回りました。6～12月は前年を下回る入荷量が続き、単価は9月を除いて前年を下回りました(図3)。

(2) 令和3年1～5月

令和3年1、2月は、入荷量が前年の令和2年の5～6割で単価は前年の8割の安値となりました。3月になると入荷量は前年並で、単価は前年を上回り、4、5月は入荷量、単価ともに前年を上回りました(図3)。

このように、ほじその単価は令和2年4月に大暴落し、その後も入荷量が少ない中でも安値で推移しました、なお、単価は上昇基調となっています。

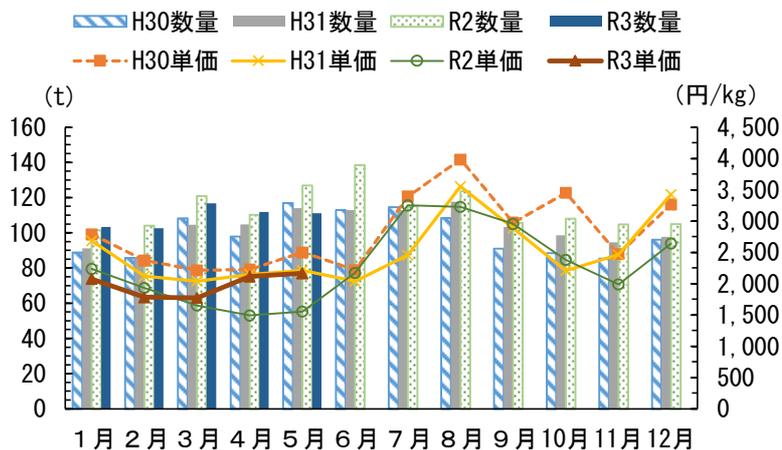


図2 おおばの入荷量と平均単価

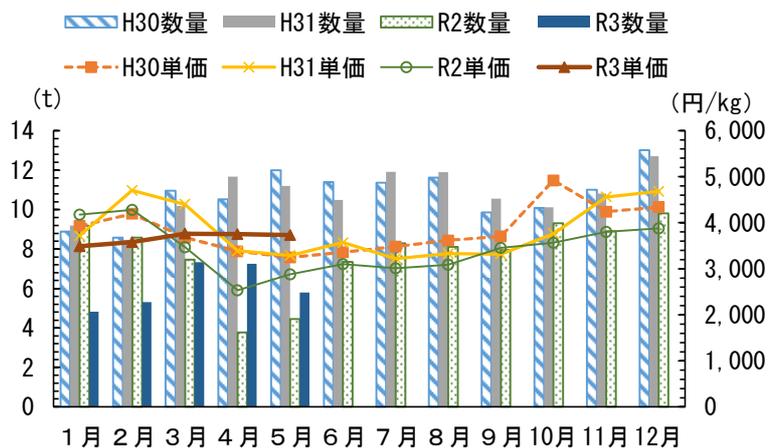


図3 ほじその入荷量と平均単価

以上のように、業務需要の停滞による単価への影響は品目により大小様々ですが、こうしたときこそ実需者等のニーズへの迅速な対応が求められ、それが今後の産地に対する信頼へとつながると考えられます。

愛知県花き振興計画 2025 について

園芸農産課

「愛知県花き振興計画2025」（以下「振興計画」）は、花き産業と花きの文化の振興を目的とした「花きの振興に関する法律」（平成26年法律第102号 以下「花き振興法」）第4条に基づき、愛知県における花き産業及び花きの文化の振興に関する計画として愛知県が2021年3月に定めたものです。

振興計画における「花き」とは、花き振興法で定める観賞の用に供される植物であり、具体的には、切り花類、鉢もの類、花壇用苗もの類、球根類、花木類、芝類、地被植物類としています。

1 計画の内容

振興計画では、1962年以降連続して花き（切り花等）産出額日本一を誇る「花の王国あいち」をさらにパワーアップさせていくために、今後5年間で、県、生産者、農業団体や流通、小売、消費団体、県民が連携して取り組む施策の基本的な方針として、「花き産業の振興」、「花きの文化の振興」、「花きの需要拡大」の三つの柱立てを行い、各施策を位置づけました。

花き産業の振興 ～花の王国あいちを支える～

<生産者の経営の安定>

意欲ある担い手の確保・育成や生産基盤の整備などに取り組みます。

- 経営安定に向けた他品目への転換支援
- スマート農業技術の導入等の生産基盤整備
- 多様な担い手の営農継続支援
- 災害への備え、復旧に向けた各種助成制度の活用支援



かがり弁ぎくの開発

<生産性及び品質の向上の促進>

品質・生産性を向上する技術の開発やオリジナル品種の開発によるブランド化などに取り組みます。

- 高品質な新品種の開発・導入とブランド化の推進
- 高生産・低コストの生産技術等の開発及び導入推進
- 流通施設の整備や流通体制の改善支援
- 育苗・苗供給体制の改善支援



2019年北京国際園芸博覧会への出展

<輸出の促進>

海外市場の獲得に向けた取組を支援します。

- 国際園芸博覧会への出展・コンテストへの参加支援
- 輸出に適した品目生産など産地の対応強化支援

＜気候変動及び環境に配慮した適応策＞

高温に強い品種の開発や施設内の栽培環境の改善などに取り組みます。

- 栽培環境改善技術の確立と導入推進

花きの文化の振興 ～花の王国あいちを定着させる～

＜公共施設及びまちづくり等における花きの活用＞

花きの癒やし効果やヒートアイランド現象の緩和など期待される施設等において花きの活用を推進します。

- 花の王国あいちシンボルマーク活用と定着
- 県内の主要施設における花き装飾展示



愛知県庁おもてなし花壇

＜花きを活用した教育、地域の花き活用の推進＞

あらゆる世代への花育を推進し、花壇づくりなどの地域活動を支援します。

＜日常生活における花きの活用促進＞

花きの日常生活への定着や新たな花贈り文化の普及などに取り組みます。

- 花いっぱい県民運動の展開
- 家庭や職場に日常的に花がある生活の定着推進

花きの需要拡大 ～花の王国あいちを拡げる～

＜花きの需要を増進する取組支援＞

新型コロナウイルス感染症拡大により変化した新たな生活様式に、花きを取り入れられるよう需要拡大の取組を支援します。

- オンラインや定期契約取引等による新たな販売体制の構築支援
- ホームユース市場に対応した生産・流通の連携強化
- 住宅やインテリア業界との連携推進

＜イベントにおける花きの活用促進＞

各種イベントで種類が豊富で高品質な本県産花きをPRします。

- 県民参加型の花と緑のイベントの継続的開催
- アジア競技大会等での花きおもてなしとPR
- 各種行事や式典における会場の生花装飾等花きの活用



あいち花マルシェ 2020

2 「花の王国あいち」の2025年度の目標

- 花き産出額 581億円（現状値 578億円（2018年））
- 花き輸出金額 2億円（現状値 23,685千円（2019年））
- 花の王国あいちの認知度 50%（現状値 33.5%（2020年））

※ 愛知県花き振興計画2025は、Webページで公表しています。

<https://www.pref.aichi.jp/engei/kakusyuu-keikaku/index.html>



愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ±1%台以下
 わずか : ±2%台
 や や : ±3～5%台
 かなり : ±6～15%台
 大 幅 : ±16%以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：巨峰）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
2年実績	645	75 (12%)	1,255	1,283	長野(58%) 山梨(30%) —
3年見通し	650	—	1,200	—	—
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>前年から引き続き、シャインマスカットの作付けが増加しており、巨峰は減少傾向にある。梅雨明けが昨年より2週間ほど早いため、生育は昨年より3～5日ほど早い。梅雨明け後の高温で、夜温も高くなっているため、着色不良が懸念される。玉肥大は問題ない。 入荷量は前年並、価格は前年をやや下回る見込み。</p>			<p>シャインマスカットの割合が年々高くなる中、バラエティ豊かな品種構成となるよう様々な品種の栽培をお願いしたい。 本年作は生育順調であるが、梅雨明け後、高い夜温が続くことによる着色不良、品質低下に注意していただきたい。長年の栽培技術をもって品質のよい巨峰づくりをお願いしたい。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（品目：いちじく）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
2年実績	785	380 (48%)	1,060	1,159	和歌山(21%) 福岡(10%) 静岡(9%)
3年見通し	850	—	1,050	—	—
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知を中心に和歌山、福岡などからの入荷となる。前年は8月の高温や9月の集中豪雨の影響で入荷量が少ない年であった。今年、平年より早い梅雨入りの影響で6月までは入荷量が少なく、価格も例年より高い状況であった。7月以降は梅雨明け後の高温、台風等の影響にもよるが、各産地生育順調のため、安定した入荷となる見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年並の見込み。</p>			<p>本県産は入荷量が多く品質も良いため、量販店からも支持されている。商品特性として過熟や裂果といった傷みがでやすく、品質管理が特に重要であるため、検品をしっかりと行い品質の維持を図るとともに、等階級別選果の徹底に努めてほしい。 いちじくは京浜地区でも夏から秋の果物として定着してきている。生産者の高齢化等により生産規模が縮小傾向であるが、産地の維持・拡大をお願いしたい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の8月の見通し

名古屋市中央卸売市場

7月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
野菜計	28年	31,113	253	263	238	北海道	40%	
	29年	31,027	230	239	224	長野	21%	
	30年	31,057	229	213	243	群馬	8%	
	元年	30,738	265	264	265	青森	5%	
	2年	33,761	221	218	232	兵庫	5%	
	5ヵ年平均	31,539	240	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き		
	3年見通し	33,200	183	—	—			
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			<p>数量 t: 0 to 60,000 単価 円/Kg: 0 to 300</p>					
<p>北海道、長野を中心に入荷する。前年は巣ごもり需要や天候不良等により特に葉菜類や果菜類等の価格が高かった。本年はほとんどの品目で前年より価格が低くなる予想。 入荷量は前年並、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>								
だいこん	28年	1,434	114	95	126	132	北海道	47%
	29年	1,459	87	92	95	87	青森	46%
	30年	1,634	113	131	122	105	岐阜	6%
	元年	1,538	97	85	125	99	長野	1%
	2年	1,474	116	110	118	123		
	5ヵ年平均	1,508	105	103	117	109	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	1,450	105	100	110	105		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			<p>数量 t: 0 to 2,500 単価 円/Kg: 0 to 250</p>					
<p>北海道、青森を中心に入荷する。北海道と青森は、経費の高騰により計画的に作付面積を減らしている。入荷量は減少する見込みだが、暑さで消費は鈍いと思われる。 入荷量は前年並、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>								
にんじん	28年	1,924	174	192	162	167	北海道	96%
	29年	1,749	154	178	115	163	青森	3%
	30年	2,198	71	58	69	86	愛知	1%
	元年	1,967	139	129	132	149		
	2年	2,369	154	195	139	126		
	5ヵ年平均	2,041	137	149	123	136	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	2,150	123	120	120	130		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			<p>数量 t: 0 to 3,500 単価 円/Kg: 0 to 350</p>					
<p>北海道を中心に入荷する。北海道と青森は生育良好で順調な入荷を見込む。降雨が多いため、入荷ムラがあることが懸念される。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>								

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

7月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
野菜計	28年	128,499	235	238	232	234	北海道 29%	
	29年	125,300	248	229	254	261	群馬 15%	
	30年	118,693	290	290	295	287	長野 12%	
	元年	126,330	240	230	246	245	岩手 7%	
	2年	118,714	308	343	318	276	青森 6%	
	5ヵ年平均	123,507	263	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	122,000	250	—	—	—		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、東北、高冷産地からの入荷が中心となる。前年は7月の長雨、その後の干ばつにより入荷を減らした。今年も北海道や青森、長野で7月下旬からの干ばつ傾向や高温が続くと出方が少なくなるか。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
	だいこん	28年	8,636	118	90	137	131	北海道 70%
29年		9,414	84	84	88	82	青森 24%	
30年		8,017	116	125	122	104	岩手 4%	
元年		8,236	95	79	114	95	群馬 1%	
2年		7,675	115	107	115	121		
5ヵ年平均		8,396	105	96	115	106	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
3年見通し		7,700	110	105	115	110		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、青森からの入荷がほとんどを占める。主力北海道は干ばつ傾向も生育は概ね順調で肥大も良好だが、今後も高温、干ばつが続くと品質低下が懸念される。青森は前進傾向の反動で上旬に量を減らすか。 入荷量は少なかった前年並で、価格は前年をやや下回る見込み。</p>						
にんじん		28年	6,700	145	169	117	146	北海道 92%
	29年	7,607	71	64	70	78	青森 3%	
	30年	6,478	137	129	139	142	中国 3%	
	元年	7,215	89	84	82	97	千葉 2%	
	2年	6,983	156	213	146	122		
	5ヵ年平均	6,997	118	130	109	116	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	6,900	105	110	105	100		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。降水量が少なく、一部では生育のばらつきがみられるも生育は概ね順調。少雨の影響から肥大は鈍いものの、出回りに不足感はない見込み。 入荷量は前年並となり、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

7月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
はんぱい	28年	1,434	109	104	146	96	長野 98% 北海道 2%	
	29年	1,690	56	61	62	58		
	30年	1,636	86	56	82	115		
	元年	1,524	122	158	105	107		
	2年	1,519	154	158	169	139		
	5ヵ年平均	1,561	104	106	111	102	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	1,550	100	100	100	100		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>長野からほぼ全量を入荷する。長野は生育順調でほぼ平年並の入荷を見込む。夏場の需要は少なく、漬物需要の回復具合により販売苦戦が予想される。</p> <p>入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>							
	キヤベツ	28年	4,206	103	103	114	102	群馬 69% 長野 22% 北海道 9% 中国 1%
29年		4,438	77	78	81	79		
30年		4,289	89	71	97	100		
元年		4,322	100	114	108	91		
2年		3,535	151	146	154	157		
5ヵ年平均		4,158	102	101	109	104	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
3年見通し		4,100	100	100	100	100		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
<p>群馬を中心に長野、北海道などから入荷する。群馬と長野は生育良好で、入荷量が増加し、ピークを迎える見込み。</p> <p>入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>								
ほうれんそう		29年	159	867	760	821	789	岐阜 92% 長野 2% 茨城 2% 愛知 2% 静岡 1%
	30年	178	682	624	690	795		
	元年	137	806	778	869	809		
	2年	137	853	848	846	886		
	2年	179	799	842	779	810		
	5ヵ年平均	158	797	766	795	815	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	160	750	700	800	750		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>岐阜を中心に、一部長野や茨城などから入荷する。7月の日照不足で品質低下が懸念される。また、暑さで傷みが出やすいため、A Lサイズの入荷量は減少する予想。</p> <p>入荷量と価格はともに前年をかなり下回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

7月31日現在

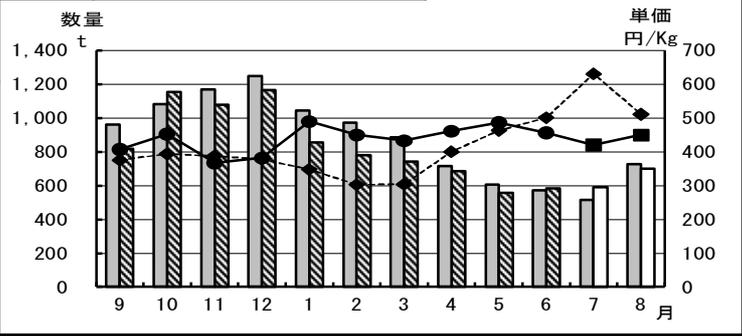
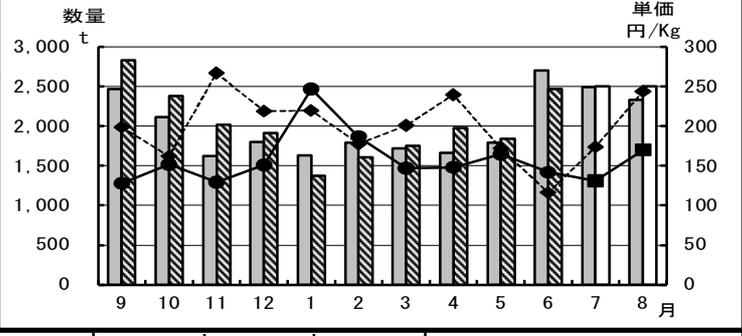
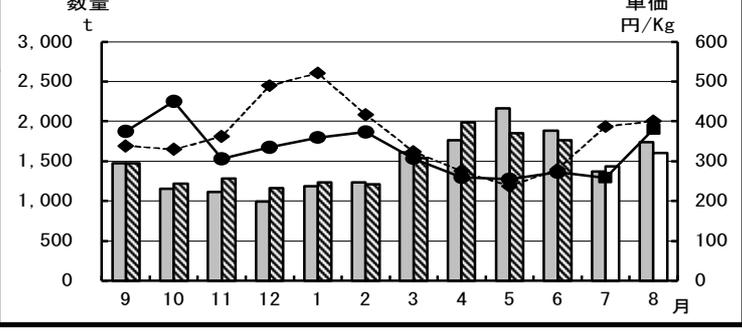
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうとう	28年	6,024	57	55	58	57	長野 87%
	29年	6,926	87	58	83	114	群馬 7%
	30年	7,209	126	164	111	106	北海道 5%
	元年	7,263	86	74	74	105	茨城 1%
	2年	5,555	171	164	205	142	
	5ヵ年平均	6,595	104	102	103	105	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	6,300	60	60	60		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野を中心に、群馬、北海道などからの入荷となる。主力の長野は、少雨に加えて気温の高い日が続く、玉伸びが鈍い地域がある。増量していくかは降雨次第。価格面は安値基調が続くと予想される。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。</p>					
キャベツ	28年	16,486	70	66	72	72	群馬 74%
	29年	16,393	82	60	90	96	岩手 17%
	30年	17,527	100	117	103	83	長野 5%
	元年	16,671	100	86	113	104	北海道 3%
	2年	15,510	166	152	176	168	青森 1%
	5ヵ年平均	16,517	103	96	110	104	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	16,200	80	80	85	75	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、岩手からの入荷がほとんどを占める。群馬は生育順調。岩手は、高温と干ばつ傾向のため生育遅れがみられるものの安定した入荷が続く見込み。相場展開は厳しいか。 入荷量は前年をやや上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。</p>					
ほうれんそう	28年	788	659	583	683	731	群馬 31%
	29年	695	823	834	881	772	栃木 29%
	30年	662	826	799	835	843	茨城 18%
	元年	576	903	735	1,011	1,011	岐阜 8%
	2年	678	828	830	816	838	岩手 6%
	5ヵ年平均	680	800	751	835	830	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	680	790	750	790	830	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、栃木など関東高冷地と岐阜、岩手などからの入荷となる。各産地とも生育は概ね順調。一部でみられた曇雨天による軟弱徒長は解消。落ち着いた入荷を見込むが、高温が続くと荷が減るか。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

7月16日現在

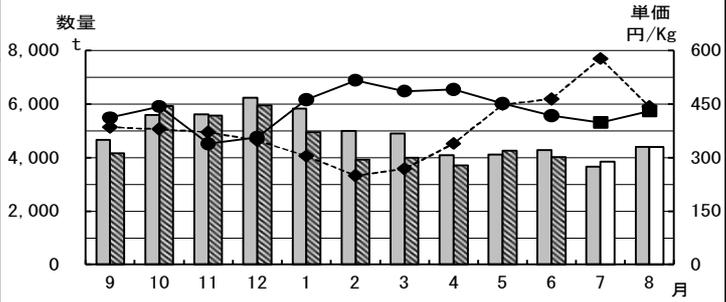
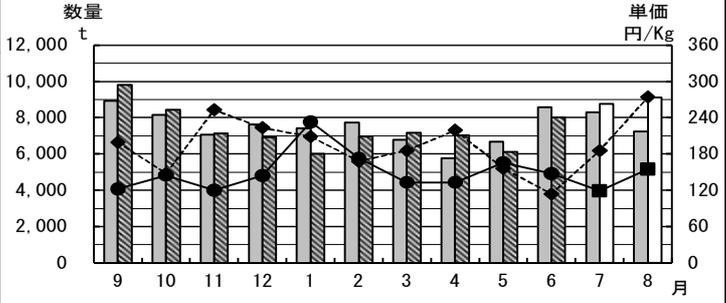
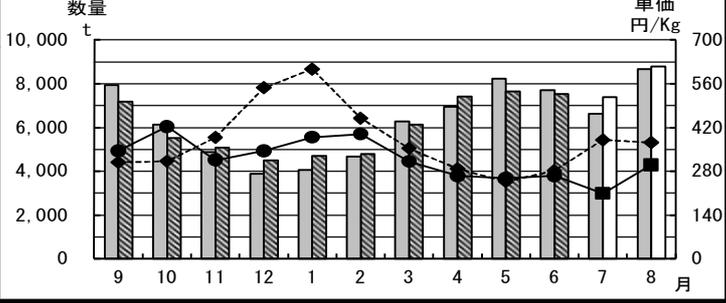
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	28年	747	425	426	467	408	北海道 46%
	29年	732	389	386	401	404	長野 16%
	30年	697	445	401	488	461	茨城 6%
	元年	608	526	509	550	530	富山 6%
	2年	726	511	605	544	424	大分 5%
	5ヵ年平均	702	457	464	488	442	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	700	450	450	450	450	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道、長野、茨城などから入荷する。北海道、長野は順調な入荷予想。愛知の夏ねぎは出荷終盤で入荷量減少の見込み。大分は8月中旬でほぼ入荷終了し、北海道、長野は上旬から入荷開始予定。 入荷量や前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。							
し	28年	2,483	197	206	218	183	長野 99%
	29年	2,429	154	137	160	181	愛知 1%
	30年	2,686	166	139	151	200	
	元年	2,762	161	170	143	168	
	2年	2,330	244	327	258	184	
	5ヵ年平均	2,538	183	193	184	183	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	2,500	170	180	180	150	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
長野からほぼ全量を入荷する。一期作が終盤に入り二期作と切り替わる時期のため、やや不安定な入荷が見込まれる。現状では、2L、L玉中心での入荷予想。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。							
きゅうり	28年	1,429	315	297	310	371	長野 51%
	29年	1,643	239	214	208	300	北海道 23%
	30年	1,479	313	253	305	370	山形 8%
	元年	1,438	403	337	423	449	岩手 5%
	2年	1,742	401	405	393	405	山梨 4%
	5ヵ年平均	1,546	334	303	327	378	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,600	380	350	380	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
長野を中心に北海道などから入荷する。8月上旬は夏秋産地から安定した入荷により、価格は平年並の見込み。中旬以降は成り疲れによる入荷量と秀品率の低下が懸念される。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや下回る見込み。							

東京都中央卸売市場

7月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	28年	4,184	310	265	356	321	茨城 21%
	29年	4,320	413	368	510	404	青森 17%
	30年	4,241	466	441	547	439	北海道 16%
	元年	4,612	358	323	430	346	秋田 15%
	2年	4,393	442	522	505	343	千葉 5%
	5ヵ年平均	4,350	398	384	470	370	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	4,400	430	400	480	410	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、青森などの東北産地、北海道などからの入荷となる。各産地とも生育は順調。茨城は下旬に減らすも、東北以北産地はハウス作型に続き露地作型の入荷が本格化し、潤沢な入荷を見込む。 入荷量は前年並となり、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>					
							
し	28年	10,216	145	122	144	172	長野 83%
	29年	10,160	168	130	151	219	群馬 13%
	30年	9,764	153	157	134	164	岩手 2%
	元年	9,759	176	157	214	164	北海道 1%
	2年	7,247	274	422	298	172	千葉 1%
	5ヵ年平均	9,429	178	184	182	179	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	9,100	155	160	165	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野、群馬からの入荷がほとんどを占める。長野、群馬ともに気温高と干ばつ傾向から生育が鈍化。小玉傾向は降雨があれば解消に向かう見込み。大きな山谷のない入荷が続き、下旬にピークとなるか。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。</p>					
							
きゅうり	28年	9,054	208	177	191	259	福島 42%
	29年	7,691	306	242	310	362	岩手 22%
	30年	7,605	374	303	400	413	秋田 10%
	元年	8,375	277	209	267	362	山形 5%
	2年	8,660	371	377	369	369	青森 5%
	5ヵ年平均	8,277	305	261	304	350	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	8,800	300	250	300	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>福島、岩手など東北産地からの入荷が中心となる。なり疲れが一部でみられるも各産地とも生育順調。各産地のピークを迎え、下旬に量を減らしながらも潤沢な入荷となると見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
							

名古屋市中央卸売市場

7月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	28年	1,094	278	333	277	245	愛知 32%
	29年	1,110	216	255	188	203	徳島 24%
	30年	955	285	287	276	292	山梨 20%
	元年	964	306	350	277	296	群馬 7%
	2年	897	399	477	418	327	茨城 6%
	5ヵ年平均	1,004	293	336	282	269	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	950	305	305	290	310	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、山梨、徳島などから入荷する。平年並の入荷予想だが、7月の曇雨天の影響で、着果の少ない段がある。愛知は天候が悪かった影響で、下級品が多くなる予想。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
<p>愛知、山梨、徳島などから入荷する。平年並の入荷予想だが、7月の曇雨天の影響で、着果の少ない段がある。愛知は天候が悪かった影響で、下級品が多くなる予想。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>							
ト マ ト	28年	1,702	304	273	282	361	岐阜 58%
	29年	1,949	275	301	248	278	北海道 24%
	30年	1,580	351	295	318	433	愛知 11%
	元年	1,501	437	378	422	512	長野 2%
	2年	1,673	373	363	366	391	青森 2%
	5ヵ年平均	1,681	344	320	323	388	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,580	350	320	330	390	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜を中心に北海道、愛知などから入荷する。8月上中旬は安定した入荷、中旬以降は成り疲れにより入荷量が減少する予想。下旬に向けて夏秋作の入荷量が減少し、価格が浮上してくる見込み。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
<p>岐阜を中心に北海道、愛知などから入荷する。8月上中旬は安定した入荷、中旬以降は成り疲れにより入荷量が減少する予想。下旬に向けて夏秋作の入荷量が減少し、価格が浮上してくる見込み。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
ミ ニ ト マ ト	28年	441	571	578	568	595	北海道 81%
	29年	500	607	694	587	541	長野 9%
	30年	576	653	556	608	767	愛知 3%
	元年	498	902	823	851	1,009	青森 3%
	2年	668	690	783	717	606	茨城 2%
	5ヵ年平均	537	686	691	670	701	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	550	650	650	600	700	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に長野、愛知などから入荷する。北海道は生育順調で、入荷のピークを迎える。出荷遅れ分が8月中旬に向けて増加してくるため、上中旬は販売苦戦の見込み。入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
<p>北海道を中心に長野、愛知などから入荷する。北海道は生育順調で、入荷のピークを迎える。出荷遅れ分が8月中旬に向けて増加してくるため、上中旬は販売苦戦の見込み。入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

7月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
なし	28年	4,547	234	256	184	255	群馬 33%
	29年	4,794	298	297	288	307	栃木 27%
	30年	5,024	308	326	273	320	茨城 25%
	元年	4,964	300	326	275	298	埼玉 3%
	2年	4,613	380	502	424	285	岩手 2%
	5ヵ年平均	4,788	304	341	289	294	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	4,800	300	310	290	300	
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>群馬、栃木、茨城など関東産地からの入荷が中心となる。各産地とも生育は概ね順調。梅雨時期の日照不足によりみられた果形や花の乱れは回復。懸念材料は少なく、順調な入荷が続くと見込まれる。 入荷量は前年をやや上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>						
もも	28年	10,663	262	288	238	256	北海道 21%
	29年	8,286	332	228	304	400	福島 17%
	30年	7,464	440	363	445	508	青森 17%
	元年	9,433	245	233	221	285	群馬 12%
	2年	8,654	348	348	325	372	岩手 9%
	5ヵ年平均	8,900	318	289	298	354	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	8,800	300	300	280	320	
ま	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>北海道のほか、福島、青森など東北産地や群馬からの入荷が中心となる。各産地とも生育は概ね順調。曇雨天による樹勢低下や着色遅れ等は解消。不足感のない出回りが続くと見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						
なし	28年	1,914	614	688	600	562	北海道 35%
	29年	1,875	682	592	644	793	青森 20%
	30年	1,633	892	769	854	1,020	茨城 12%
	元年	2,503	464	526	414	451	岩手 10%
	2年	2,282	663	716	702	595	福島 8%
	5ヵ年平均	2,041	645	650	626	658	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	2,300	650	640	650	660	
ま	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>北海道や、青森などの東北産地からの入荷が中心となる。生育は各産地とも概ね順調で前進傾向。着花や着果に大きな問題はないものの高温が続くと着花不良が心配される。 入荷量は前年並となり、価格も前年並となる見込み。</p>						

名古屋市中央卸売市場

7月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	28年	482	424	407	460	448	北海道 41%
	29年	442	279	347	306	297	青森 20%
	30年	392	403	387	427	461	岩手 18%
	元年	380	596	564	580	606	宮崎 11%
	2年	531	513	619	489	454	茨城 5%
	5ヵ年平均	445	442	469	451	449	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	480	480	550	450	450	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							<p>北海道、岩手を中心に青森などからも入荷する。作柄は良好で、平年並の入荷見込み。8月上中旬は入荷量が少なく価格も高いが、下旬は入荷ピークとなるため価格も下がってくる予想。 入荷量と価格ともに前年をかなり下回る見込み。</p>
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							<p>北海道、兵庫を中心に入荷する。兵庫は2L、L玉中心で、盆前ではほぼ終了の見通し。北海道は生育良好で、8月上旬に入荷が始まり、中～下旬にかけては北海道中心の入荷となる予想。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。</p>
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							

東京都中央卸売市場

7月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
ピーマン	28年	2,162	229	288	202	202	岩手 53%	
	29年	1,949	373	335	386	399	茨城 20%	
	30年	1,947	545	561	573	517	福島 15%	
	元年	2,180	376	374	347	399	青森 9%	
	2年	2,543	468	667	422	392	宮崎 1%	
	5ヵ年平均	2,156	398	453	383	379	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	2,400	390	420	380	370		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岩手、福島など東北産地と茨城からの入荷が中心となる。東北産地の一部で見られた生育遅れ等は好天により回復し、各産地とも生育順調。7月末の台風による影響が心配されるも、十分量の出回りを見込む。 入荷量は多かった前年をやや下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
	<p>岩手、福島など東北産地と茨城からの入荷が中心となる。東北産地の一部で見られた生育遅れ等は好天により回復し、各産地とも生育順調。7月末の台風による影響が心配されるも、十分量の出回りを見込む。 入荷量は多かった前年をやや下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>							
	ばれいしょ	28年	6,503	147	158	145	143	北海道 90%
29年		6,290	124	117	125	130	茨城 4%	
30年		5,139	117	91	117	132	千葉 3%	
元年		6,104	124	142	123	111	青森 2%	
2年		7,071	166	267	162	122	静岡 1%	
5ヵ年平均		6,221	137	160	136	128	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
3年見通し		6,200	130	140	130	120		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に茨城、千葉などからの入荷となる。主力が関東産地や静岡から北海道へ切り替わる。増量していく北海道は、生育順調も干ばつのため小玉中心で入荷量は少なめか。出回りに不足はない見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>						
<p>北海道を中心に茨城、千葉などからの入荷となる。主力が関東産地や静岡から北海道へ切り替わる。増量していく北海道は、生育順調も干ばつのため小玉中心で入荷量は少なめか。出回りに不足はない見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>								
たまねぎ		28年	9,412	170	191	177	152	北海道 66%
	29年	10,166	88	89	91	85	兵庫 21%	
	30年	9,933	112	118	114	106	佐賀 5%	
	元年	9,221	88	92	88	84	中国 3%	
	2年	9,719	116	144	116	92	富山 2%	
	5ヵ年平均	9,690	114	126	117	104	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	9,600	110	120	110	100		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に、兵庫、佐賀などからの入荷となる。北海道は生育順調で干ばつの影響は小さく肥大も問題ない。豊作の兵庫は大玉傾向で、下旬に量を減らすも安定した入荷を見込む。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
	<p>北海道を中心に、兵庫、佐賀などからの入荷となる。北海道は生育順調で干ばつの影響は小さく肥大も問題ない。豊作の兵庫は大玉傾向で、下旬に量を減らすも安定した入荷を見込む。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

7月17日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	28年	9,757	435	444	445	419	長野 27%
	29年	9,919	401	436	381	357	フィリピン 13%
	30年	9,116	393	432	381	358	山形 10%
	元年	8,607	430	443	414	430	愛知 9%
	2年	7,691	434	428	431	453	青森 7%
	5ヵ年平均	9,018	418	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し	7,900	410	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	ぶどう、なし、ももなどを中心に入荷する。全体的に生育が前進傾向であり、ぶどうは前年より3日程度早い。ももは不作だった前年に比べて入荷量大幅増の予想。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をやや下回る見込み。						
アールスメロン	28年	247	553	—	—	—	愛知 55%
	29年	260	550	—	—	—	静岡 24%
	30年	226	556	—	—	—	茨城 18%
	元年	207	605	—	—	—	山形 2%
	2年	186	636	—	—	—	高知 2%
	5ヵ年平均	225	576	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し	190	630	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知を中心に静岡、茨城などから入荷する。愛知は天候不良の影響で小玉傾向である。本年は旧盆と沖縄盆が重なるため、平年より引き合いはやや強い予想。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年並の見込み。						
すいか	28年	2,256	183	207	179	121	長野 43%
	29年	2,776	165	205	151	106	山形 34%
	30年	2,135	186	186	191	183	青森 15%
	元年	2,284	170	163	181	178	秋田 2%
	2年	1,669	221	195	239	304	愛知 1%
	5ヵ年平均	2,224	182	192	184	168	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し	1,650	200	180	220	250		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	山形、長野を中心に青森などからも入荷する。本年から秋田からの入荷がなくなる。前年は7月期から梅雨が始まり数量が少なかったが、本年は平年並の入荷量の予想。入荷量は前年並で、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。						

東京都中央卸売市場

7月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	分実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	28年	40,346	379	417	371	340	山形 17%
	29年	39,014	398	434	401	357	山梨 11%
	30年	35,342	436	427	436	448	長野 8%
	元年	35,795	432	407	431	470	福島 8%
	2年	28,903	557	492	566	622	青森 8%
	5ヵ年平均	35,880	434	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	30,000	500	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	なし、もも、ぶどうを中心に入荷する。各品目生育順調だが、例年に比べ早く梅雨明けした地域が多く、出荷が前倒しになる品目も多い。なしでは前進出荷で8月は入荷量増える見込み。 入荷量は少なかった前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						
アールスメロン	28年	603	546	600	586	454	静岡 33%
	29年	649	546	600	661	453	茨城 27%
	30年	635	571	549	708	525	青森 20%
	元年	565	643	593	758	635	山形 8%
	2年	516	737	632	846	755	愛知 6%
	5ヵ年平均	594	603	593	706	556	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	520	730	640	850	700	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	静岡、茨城を中心に入荷する。茨城は生育順調で前年並の入荷となる見込み。静岡は天候不順の影響で、下位等級の発生は多くなる見込み。 入荷量、価格ともに前年並となる見込み。						
すいか	28年	9,980	175	205	161	118	山形 50%
	29年	10,196	166	200	154	110	秋田 15%
	30年	7,936	190	179	193	223	青森 11%
	元年	9,732	179	170	185	200	長野 10%
	2年	6,261	264	209	281	438	神奈川 2%
	5ヵ年平均	8,821	189	192	187	199	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	8,500	210	190	200	240	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	山形を中心に入荷する。生育は順調で潤沢な入荷が見込まれる。梅雨明け後気温の高い日が続く、水分の多い果実の需要が増えており販売は順調。8月上旬が入荷のピークとなり、その後は落ち着く見込み。 入荷量は少なかった前年を大幅に上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。						

切花・鉢花の8月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 7月30日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	28年	2,641	55	
		29年	2,381	58	
		30年	2,185	62	
		元年	1,885	57	
		2年	2,021	52	
5カ年平均		2,223	57		
3年見通し		2,200	55		
概要	愛知、長野、三重中心に入荷する。ハウス栽培物は生育順調で上位等級中心の入荷となりそう。露地物に関しては産地によって雹害が出ているところがあり、規格外品の入荷も増える。後半には品薄になる見込み。				
小 ぎ	実績	28年	2,477	36	
		29年	1,931	37	
		30年	1,732	44	
		元年	1,771	39	
		2年	1,698	40	
5カ年平均		1,922	39		
3年見通し		1,700	40		
概要	愛知、長野、奈良、埼玉、岩手などから入荷する。全体的に生育は前進傾向となっている。盆商戦後半には入荷量が減少する見込みで堅調な販売が見込まれる。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	29年	1,347	44	
		30年	1,281	48	
		元年	1,451	49	
		2年	1,391	41	
		5カ年平均	1,333	45	
3年見通し		1,250	45		
概要	長野中心に入荷する。例年に比べ、やや前進傾向。お盆の入荷は例年並みの予想。				
か す み	実績	28年	138	89	
		29年	121	95	
		30年	120	105	
		元年	109	105	
		2年	103	115	
5カ年平均		118	101		
3年見通し		110	105		
概要	長野、福島から入荷する。上旬は新植株のピークとなるため、各産地出荷は多い見込み。盆需要は少なく、数量次第では厳しい販売となりそう。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	27年	455	159	
		28年	428	152	
		29年	355	178	
		30年	366	155	
元年		288	175		
5カ年平均	378	162			
3年見通し	320	160			
概要	<p>オリエンタルは新潟、岐阜、北海道から入荷する。やや前進しているが概ね順調な入荷が見込まれ、盆は大きな混乱はなさそう。鉄砲は兵庫、愛媛からの入荷となる。愛媛の生産量が減っているため、入荷数量は減少しそう。LAは新潟、埼玉から前年並みの入荷となる見込み。</p>				
洋らん	実績	28年	453	86	
		29年	484	78	
		30年	532	82	
		元年	417	89	
2年		317	94		
5カ年平均	441	85			
3年見通し	320	90			
概要	<p>愛知、鹿児島、静岡など国産や輸入が入荷する。コロナの影響を受け、タイ産のデンファレは4割減の見込みでかなり少ない入荷となる見込み。台湾オンシジウムも船便の遅延や欠航が相次ぎ、不安定。</p>				
ばら	実績	28年	695	49	
		29年	566	60	
		30年	557	60	
		元年	486	53	
2年		451	53		
5カ年平均	551	55			
3年見通し	480	53			
概要	<p>山形、長野、愛知、岐阜を中心に入荷する。今年は輸入物が例年に比べて早いスタートとなっている。業務需要は依然少なく、動きは鈍い。</p>				
枝も	実績	28年	2,028	66	
		29年	1,766	68	
		30年	1,726	65	
		元年	1,505	70	
2年		1,384	74		
5カ年平均	1,682	68			
3年見通し	1,400	70			
概要	<p>全体に前進傾向の中、温度も高く、山取りは入荷減少、栽培物も草焼けや実焼けなど品質の劣化が進んでいる。花木類はパンパス中心の販売だが、ドライフラワーになる花材として人気が高く、早生でも年々価格は高騰している。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ア ン ス リ ウ ム	実 績	28年	12,095	900	
		29年	9,275	948	
		30年	9,758	926	
		元年	10,825	926	
		2年	12,611	905	
	5カ年平均		10,913	919	
	3年見通し		12,000	917	
概要	<p>入荷量は前年より若干減る見込み。作付け内容に大きな変更はなく、6号MIXが主体となる。7号以上は赤・ピンク・白系が主力の色目となる。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(89.7%)、2位長崎(7.5%)、3位徳島(1.1%)となっている</p>				
シャ コ バ サ ボ テ ン	実 績	28年	7,405	369	
		29年	8,559	403	
		30年	3,421	411	
		元年	5,058	394	
		2年	7,387	388	
	5カ年平均		6,366	391	
	3年見通し		7,300	384	
概要	<p>入荷量は前年並か。ホームセンターの注文を中心に3、5号、5号の引き合いが強く、6号以上は年々厳しくなっている。また、近年残暑が厳しく盆明けの花き自体の需要が減少しているため、注文の減少・競売価格の下落傾向が著しい。生産量は前年とほぼ変わらないため、注文の数量次第では、競売価格が大幅に上下すると思われる。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(87.9%)、2位愛知(12.1%)となっている。</p>				
バラ 及 び ミ ニ バ ラ	実 績	28年	9,230	95	
		29年	7,147	119	
		30年	5,324	123	
		元年	4,153	110	
		2年	6,075	119	
	5カ年平均		6,386	112	
	3年見通し		6,000	120	
概要	<p>入荷量は継続的な生産調整等で前年並かやや減少の見込み。前年同様、周年生産の産地である岐阜と愛媛を中心に3～3.5号が入荷の中心となる見込み。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛媛(60.7%)、2位岐阜(32.1%)、3位千葉(6.4%)となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
オンシジウム	実績	28年	3,131	656	
		29年	1,633	776	
		30年	1,331	764	
		元年	1,092	597	
		2年	1,302	840	
	5カ年平均		1,698	717	
	3年見通し		1,200	833	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。相場の低迷、生産者も減少している。気温が高いと開花速度が速く、鑑賞期間が短くなりがちなので固めの出荷をお願いしたい。 また、パーク栽培が多く水切れの可能性があるので、水をしっかりと与えてからの出荷をお願いしたい。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(74.7%)、2位高知(13.9%)、3位長崎(8.1%)となっている。</p>				
スパティ	実績	28年	835	452	
		29年	1,496	342	
		30年	1,213	378	
		元年	2,420	296	
		2年	2,872	274	
	5カ年平均		1,767	323	
	3年見通し		2,500	280	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。年々生産量が減少しているのが要因で今期も減少の見込み。4～6号が入荷のメインで、今季の夏は気温がかなり高い見込みもあり、販売も苦戦が予想されるが単価的にも厳しい見込み。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位三重(49.5%)、2位愛知(37.3)、3位福岡(5.9%)となっている。</p>				
ドラセナ	実績	28年	15,486	783	
		29年	12,613	926	
		30年	14,135	808	
		元年	14,216	687	
		2年	19,824	832	
	5カ年平均		15,255	806	
	3年見通し		18,500	865	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。先月に引き続き、ユッカ・マッサン等原木類、各サイズの品薄が続く見込み。サイズ別では4号、5号が特に品薄状態となっている。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(68.3%)、2位沖縄(7.1%)、3位鹿児島(7.1%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.578
2021年8月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434